

特養の食費に対する物価高騰の影響

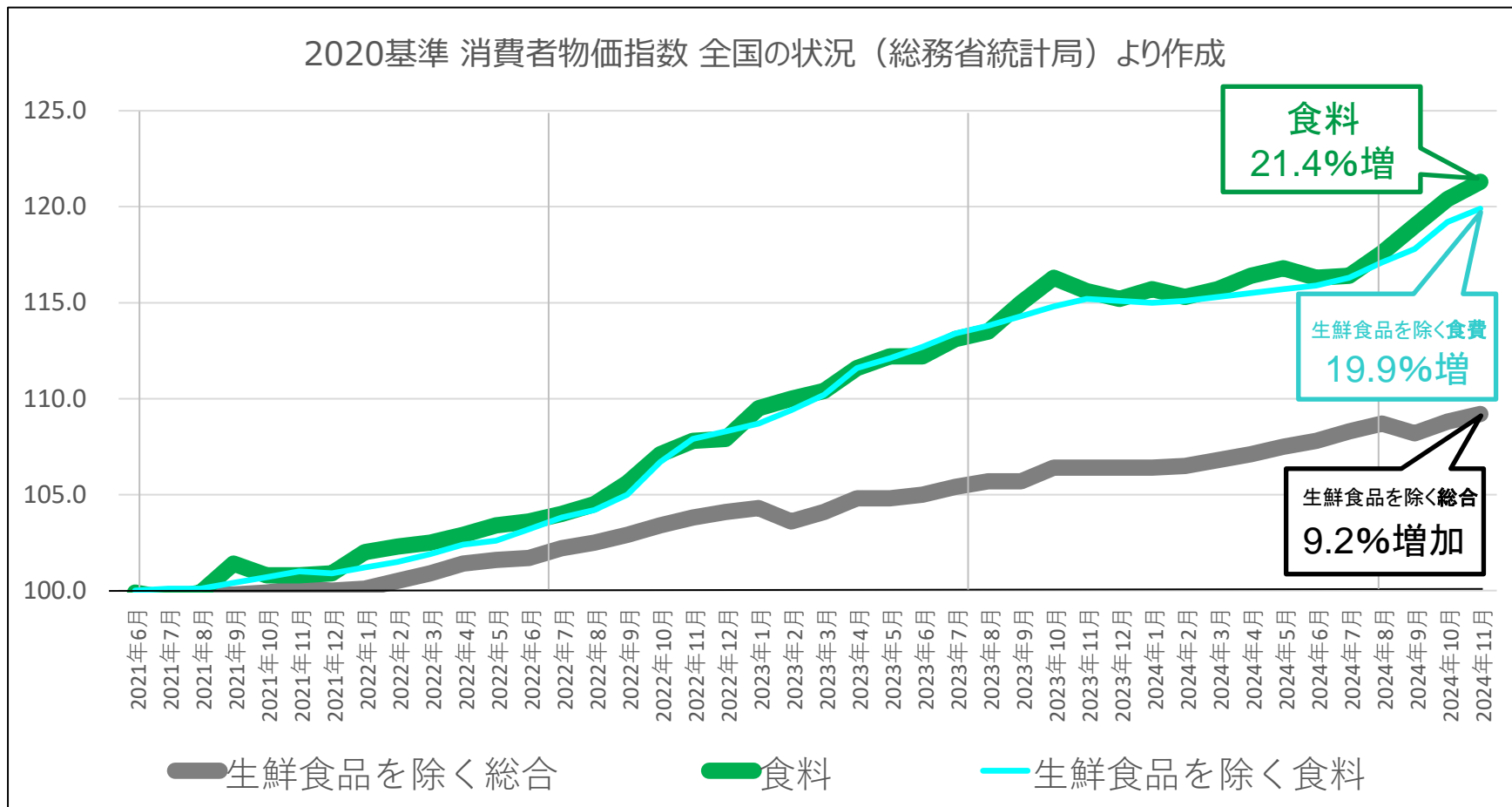
- 食費(基準費用額)に関する調査
- 特別養護老人ホームにおける食事サービス調査

令和7年1月8日
公益社団法人全国老人福祉施設協議会

物価高騰の状況

- 令和6年11月の消費者物価指数（総務省）の動向を見ると、生鮮食品を除く総合は、令和3年6月比で9.2%増加している。
- 食料は、令和3年6月比で21.4%（生鮮食品を除く食費は19.9%）増加している。

※令和3年に食費（基準費用額）が見直されたことから、本会調査(スライド5以降)時点に合わせて令和3年6月比較とした。



令和6年度介護報酬改定

- 基準費用額のうち食費については、R6介護報酬改定の議論では見送られた。
- 特養利用者の保険料段階別利用者割合は第4段階以上が少ないことから、食費を基準費用額に合わせて設定することが多い。
- 物価高騰等の影響を把握し、見直しに向けた要請活動が喫緊の課題。

令和6年度介護報酬改定に関する審議報告（R5.12.19）

Ⅲ 今後の課題

【物価高騰への対応】

- 足下の物価高騰が事業所に様々な影響を及ぼしているとの指摘があることを踏まえ、**引き続き、物価高騰が居住費・食費に及ぼす影響を適切に把握し、必要な対応を行うべきである。**

（参考）

第234回社会保障-介護給付費分科会（R5.12.4）

基準費用額のうち食費について古谷委員（全国老協協参与）が質問

【厚生労働省回答】

- **経営実態調査の結果、食材料費の支出については全体として大きく伸びてない**ことから、今回まずは光熱水費の提案をさせていただいた。引き続きご意見を頂きながら検討していきたい。

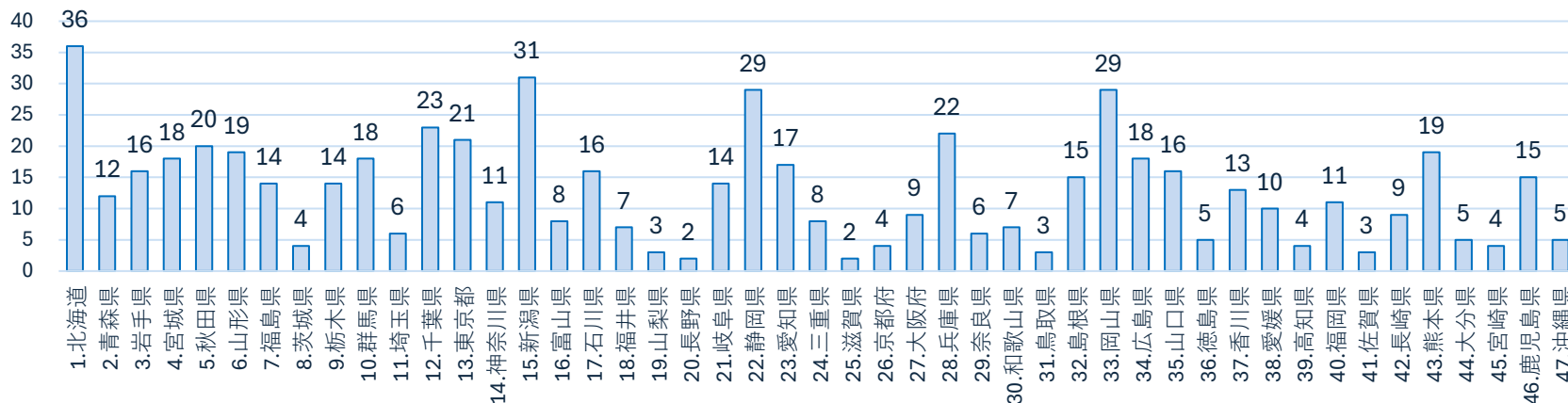
全国老施協「食費（基準費用額）に関する調査」

- 物価高騰が食費に及ぼす影響を適切に把握し、政策提言の基礎資料とするために、特別養護老人ホームにおける食事のコスト等を把握する調査を実施。

調査期間	8/23（金）～9/6（金）正午
調査方法	Web調査（Questant）
調査対象	本会会員の特別養護老人ホーム（悉皆調査）
回答者	管理者、事務職員 等
回答数/調査対象	918/4,639（回答率19.8%）
有効回答数	601

都道府県別の回答状況

(n = 601)



(エラーチェック)

本調査は下記(1)～(6)を全て満たした回答のみ有効回答とした（全項目で n 数を揃えた）

(1) 延べ利用者数

- ・ 3か年のうち1年でも記載されていない場合は、3か年ともに削除。
- ・ 3か年の稼働率が、1年でも150%を超える又は50%未満となる場合は、3か年ともに削除。

$$\text{【稼働率】} = \text{延べ利用者数} \div (\text{定員(特養+短期)} \times 30\text{日})$$

(2) 第4段階以上延べ利用者

- ・ 3か年の第4段階以上延べ利用者が、1年でも0の場合は、3か年ともに削除。
- ・ 3か年の第4段階以上延べ利用者が、1年でも延べ利用者数を超過している場合は、3か年ともに削除。

$$\begin{aligned} \text{【第4段階以上延べ利用者割合】} \\ = \text{第4段階以上延べ利用者} \div (\text{定員(特養+短期)} \\ \times 30\text{日}) \end{aligned}$$

(3) 延べ食数

- ・ 3か年の想定延べ食数が、1年でも150%を超える又は50%未満となる場合は、3か年ともに削除。

$$\text{【想定延べ食数】} = \text{延べ食数} \div (\text{延べ利用者数} \times 3\text{食})$$

(4) 食費設定額（4段階以上）

- ・ 1000円未満または3000円以上の回答があるものは3か年ともに削除。

(5) 食費の設定単価（第4段階以上）の見直し

- ・ 見直し後の単価が、基準費用額1,445円を下回場合は、特殊事情、1食単価の記入、誤記入の可能性があるため削除。
- ・ 1380円→1445円への見直しは基準費用額への対応のタイミングのズレと想定されるため、当該項目を本調査回答から削除。
- ・ 見直し時期が令和4年～6年の時期以外が入力されているものを削除。

(6) 利用者一人一日あたり食費

- ・ 利用者一人一日あたり食費の合計が1000円未満または3000円以上の回答があるものは3か年ともに削除。

$$\begin{aligned} \text{【利用者一人一日あたり食費】} \\ = (\text{給食材料費} + \text{調理員人件費}) \div \text{延べ利用者数} \end{aligned}$$

(1) 基本情報

平均定員数

81.8人（特養+短期）

70.5人（特養のみ）

11.3人（短期のみ）

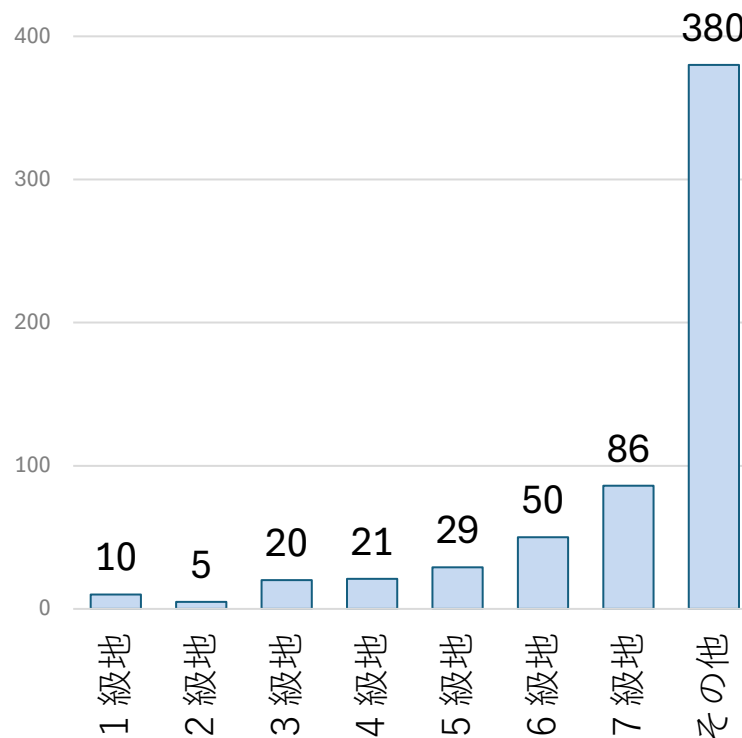
特養の定員規模別にみた短期の定員数

(n = 601)

特養		短期			
定員数	回答数	平均	中央	最大	最小
～29人	39	6.1	6	29	0
30人	16	9.2	9	30	0
31～50人	144	11.3	10	30	0
51～80人	240	11.7	10	53	0
81～100人	104	12.0	10	52	0
101～人	58	14.4	15.5	32	0

地域区分の状況

(n = 601)

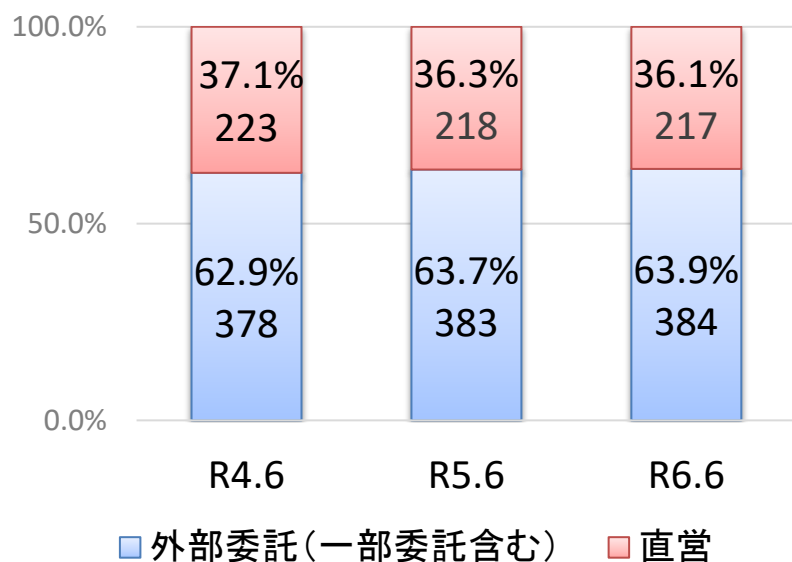


(2) 給食業務の形態

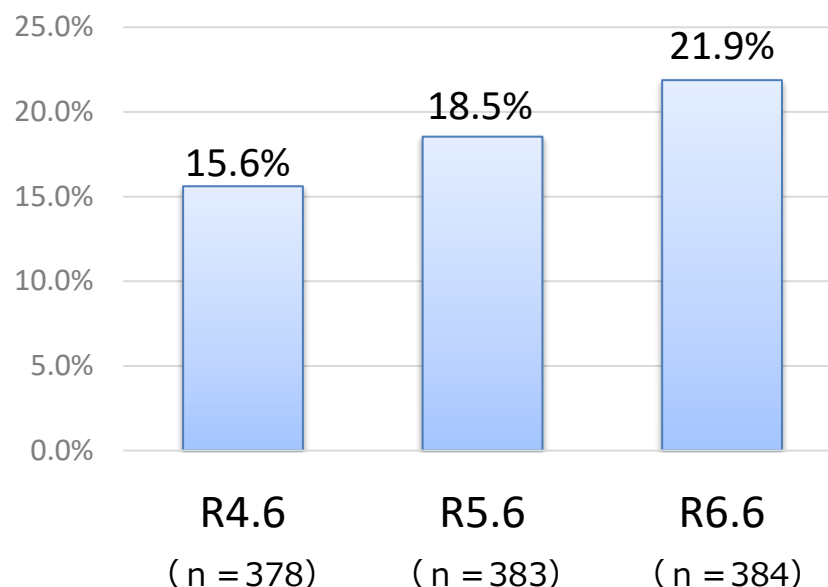
- 外部委託（一部委託含む）の状況は横ばい。
- 外部委託（一部委託含む）施設において、セントラルキッチン方式の導入が増加している。

外部委託の状況

(n = 601)



セントラルキッチン方式※の導入状況

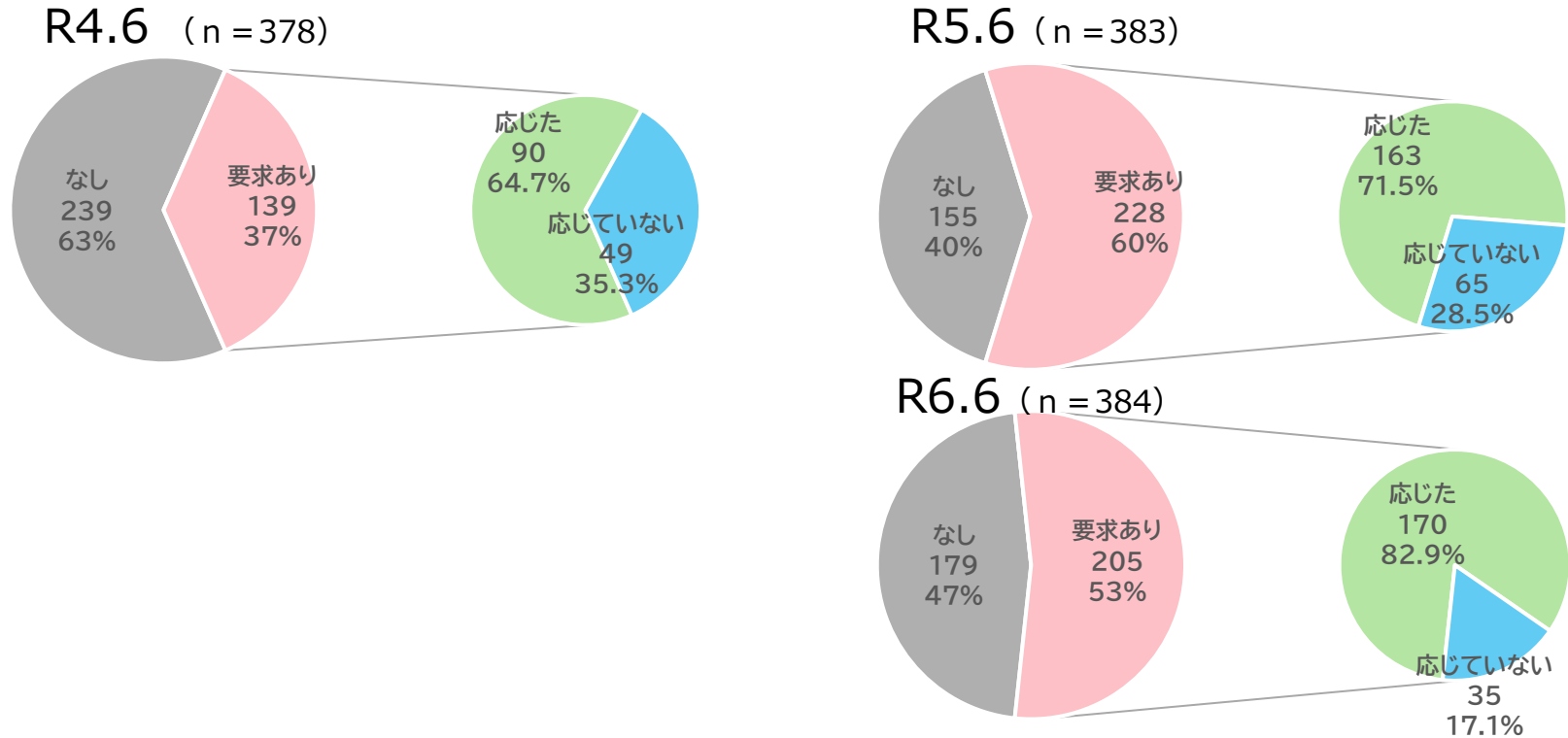


※ セントラルキッチン方式とは、昼食夕食のいずれか又は両方の主菜において完全調理品(クックチル・クックフローズン等)を導入し、調理業務の効率化を図っていることをいう。

(3) 外部委託先からの値上げ要求とその対応

- R4.6に比べてR5.6、R6.6の値上げ要求が多くなっている。
- 値上げ要求に応じた施設の割合も年々増加している。

外部委託先からの値上げ要求とその対応



（４）利用者の状況

- 稼働率は、92.1%（R4.6）から91.7%（R6.6）で推移。
- 第４段階以上延べ利用者割合は、31.1%（R4.6）から32.3%（R6.6）で推移。

利用者（特養+短期）の状況

No.	項目	単位	平均
1	定員数	人	81.8
2	延べ利用者数（R4.6）	人	2,257.6
3	延べ利用者数（R5.6）	人	2,256.6
4	延べ利用者数（R6.6）	人	2,254.4
5	稼働率（R4.6）※1	%	92.1
6	稼働率（R5.6）※1	%	91.8
7	稼働率（R6.6）※1	%	91.7
8	延べ食数（R4.6）	食	6,635.3
9	延べ食数（R5.6）	食	6,613.2
10	延べ食数（R6.6）	食	6,609.9

No.	項目	単位	平均
11	第４段階以上延べ利用者数（R4.6）	人	701.7
12	第４段階以上延べ利用者数（R5.6）	人	718.6
13	第４段階以上延べ利用者数（R6.6）	人	727.8
14	第４段階以上延べ利用者割合（R4.6）※2	%	31.1
15	第４段階以上延べ利用者割合（R5.6）※2	%	31.8
16	第４段階以上延べ利用者割合（R6.6）※2	%	32.3

(n = 601)

※ 1 稼働率は、「特養・短期の延べ利用者数÷（特養と短期の定員数×30日）」で計算
「稼働率50%未満及び150%以上」とする回答を削除

※ 2 第４段階以上延べ利用者割合は、「特養・短期の保険料第４段階以上延べ利用者数÷特養・短期の延べ利用者数」で計算
「第４段階以上の割合100%超」とする回答を削除

（5）食費の利用者負担額※（第4段階の方の食費の設定額）

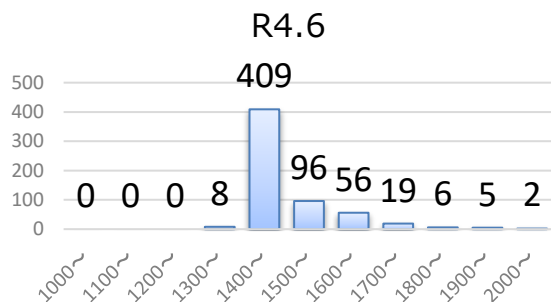
※ 食費は保険給付の対象外のため、施設との契約により施設が定めた食費の額を全額負担します。

※ 利用者負担段階1～3段階までの方は所負担限度額が設定され、基準費用額との差額が補足給付されます。

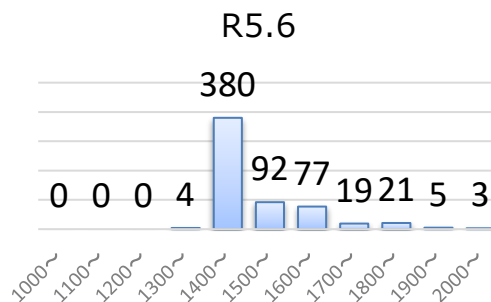
- 第4段階の食費の設定額は、1533.6円（R6.6）であり、令和4年6月と比較して40.6円増加している。
- その内訳は、54.2%（R6.6）の施設が基準費用額と同額の設定している。

食費の設定額（保険料第4段階以上の方）の状況 (n = 601)

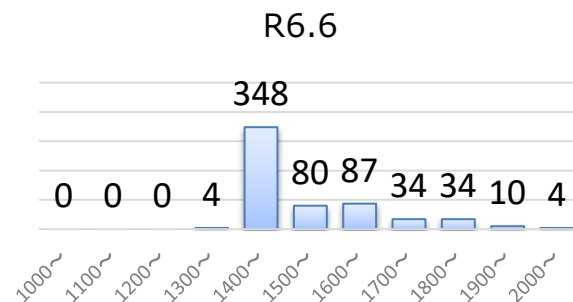
年月	平均	中央	最大	最小
R4.6	1,493.0 円	1,445 円	2,200 円	1,380 円
R5.6	1,510.5 円	1,445 円	2,420 円	1,380 円
R6.6	1,533.6 円	1,445 円	2,420 円	1,380 円



※基準費用額1,445円に設定している施設は
372施設 (61.9%)



※基準費用額1,445円に設定している施設は
351施設 (58.4%)



※基準費用額1,445円に設定している施設は
326施設 (54.2%)

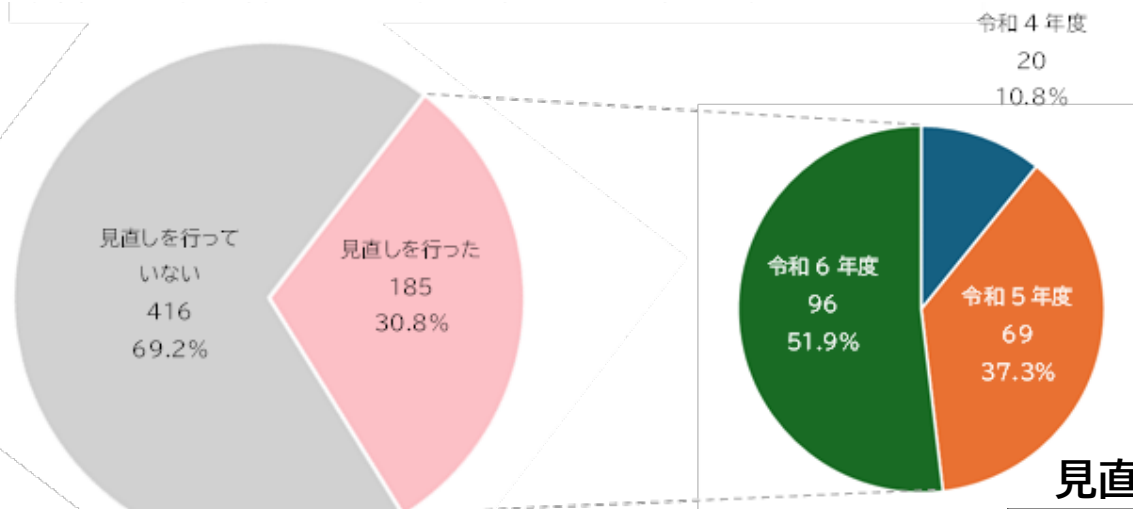
（6）食費の利用者負担額※（第4段階以上の方の食費の設定額）の見直し状況

※ 食費は保険給付の対象外のため、施設との契約により施設が定めた食費の額を全額負担します。

※ 利用者負担段階の1～3段階までの方は所負担限度額が設定され、基準費用額との差額が補足給付されます。

- 令和4～6年度の3か年で30.8%の施設が食費の利用者負担額を見直している。
- 見直した施設の見直し後の単価は平均1,673円であり、見直し前から124円増加している。

食費の設定単価(第4段階以上の方)の見直しの有無 (n=601)



見直し前後の単価の状況 (n=185)

	単位	見直し後	見直し前	差額
平均	円	1,673	1,549	124
中央	円	1,650	1,500	150
最大	円	2,420	2,200	220
最小	円	1,445	1,392	53

(7) - 1 食事に係る費用（利用者一人一日あたり食費）

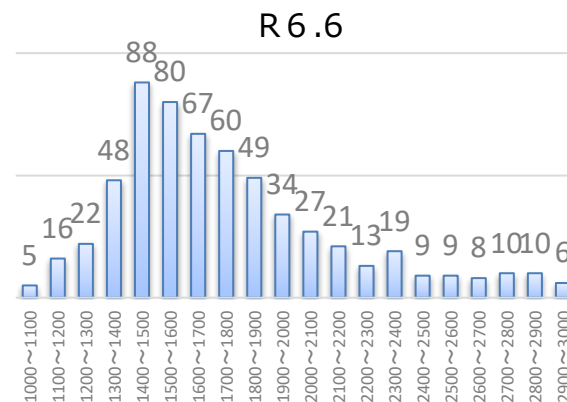
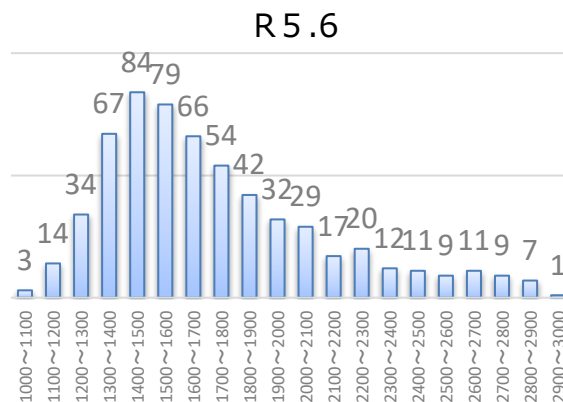
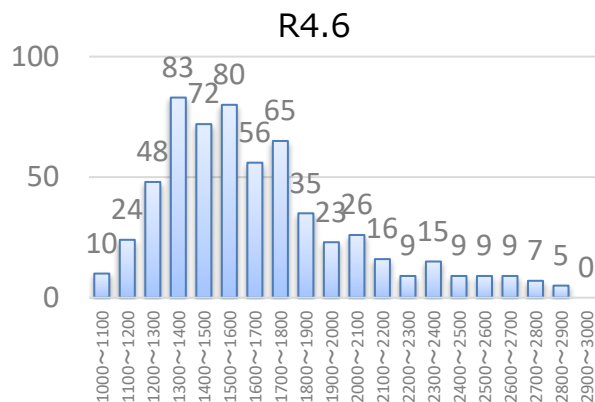
※ 利用者一人一日あたり食費 = (給食材料費+調理員人件費)÷延べ利用者数

- 令和6年6月の利用者一人一日あたり食費は、1753.8円（うち給食材料費が918.7円、調理員人件費が835.1円）であり、令和4年6月と比較して91.0円増加している。

利用者一人一日あたり食費の状況

(n=601)

年月	平均	中央	最大	最小
R4.6	1662.8 円	1581.2 円	2894.1 円	1012.6 円
R5.6	1722.8 円	1619.4 円	2930.5 円	1053.1 円
R6.6	1753.8 円	1661.9 円	2978.3 円	1007.3 円



(7) - 2 食事に係る費用（利用者一人一日あたり食費（給食材料費+調理員人件費））

※ 利用者一人一日あたり食費 = (給食材料費+調理員人件費)÷延べ利用者数

● 令和6年6月の利用者一人一日あたり食費

うち給食材料費は、918.7円、令和4年6月と比較して53.9円増加している

うち調理員人件費は、835.1円であり、令和4年6月と比較して37.4円増加している。

利用者一人一日あたり食費の状況

(n=601)

年月	項目	平均	中央	最大	最小
R4.6	利用者一人一日あたり食費	1662.8	1581.2	2894.1	1012.6
	うち給食材料費	864.8	810.7	2244.7	0.0
	うち調理員人件費	797.7	733.9	2098.7	208.4
R5.6	利用者一人一日あたり食費	1722.8	1619.4	2930.5	1053.1
	うち給食材料費	907.0	840.0	2237.7	0.0
	うち調理員人件費	815.8	734.2	2246.9	0.0
R6.6	利用者一人一日あたり食費	1753.8	1661.9	2978.3	1007.3
	うち給食材料費	918.7	864.3	2417.0	0.0
	うち調理員人件費	835.1	776.7	2209.0	0.0

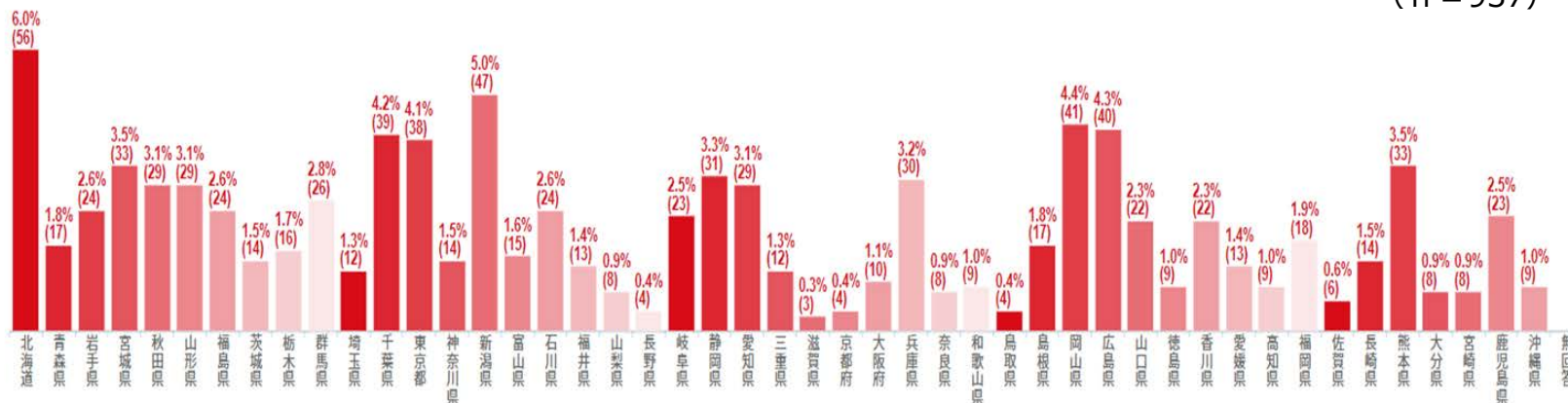
全国老施協「特別養護老人ホームにおける食事サービス調査」

- 特別養護老人ホームにおける食事の質について、昨今の食材料費の高騰が利用者に与えた変化・影響等について、政策提言に向けたエビデンスを作るために実施。

調査期間	8/23（金）～9/6（金）正午
調査方法	Web調査（Questant）
調査対象	本会会員の特別養護老人ホーム（悉皆調査）
回答者	（管理）栄養士
回答数/調査対象	937/4,639（回答率20.2%）
有効回答数	937

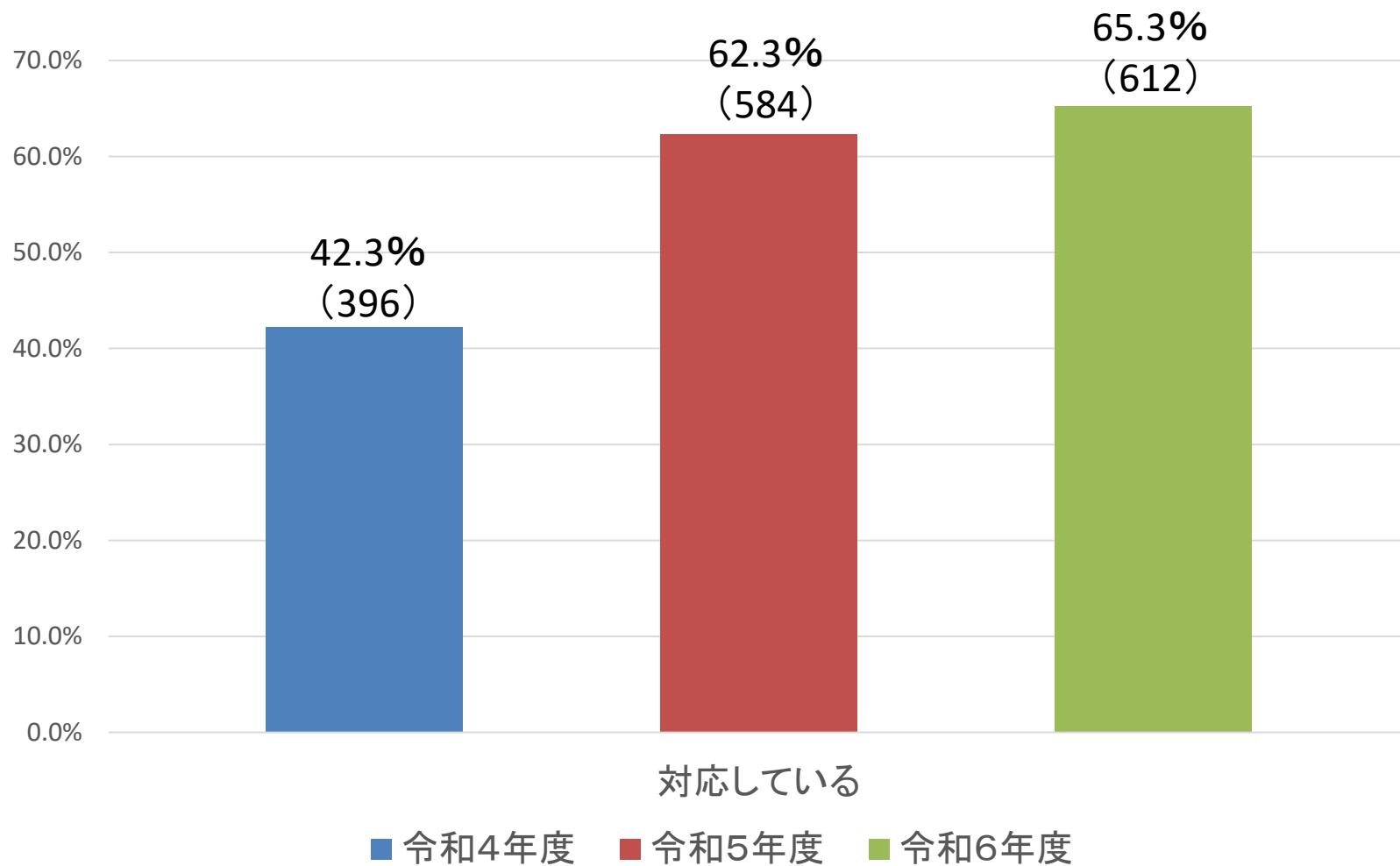
都道府県別の回答状況

(n = 937)

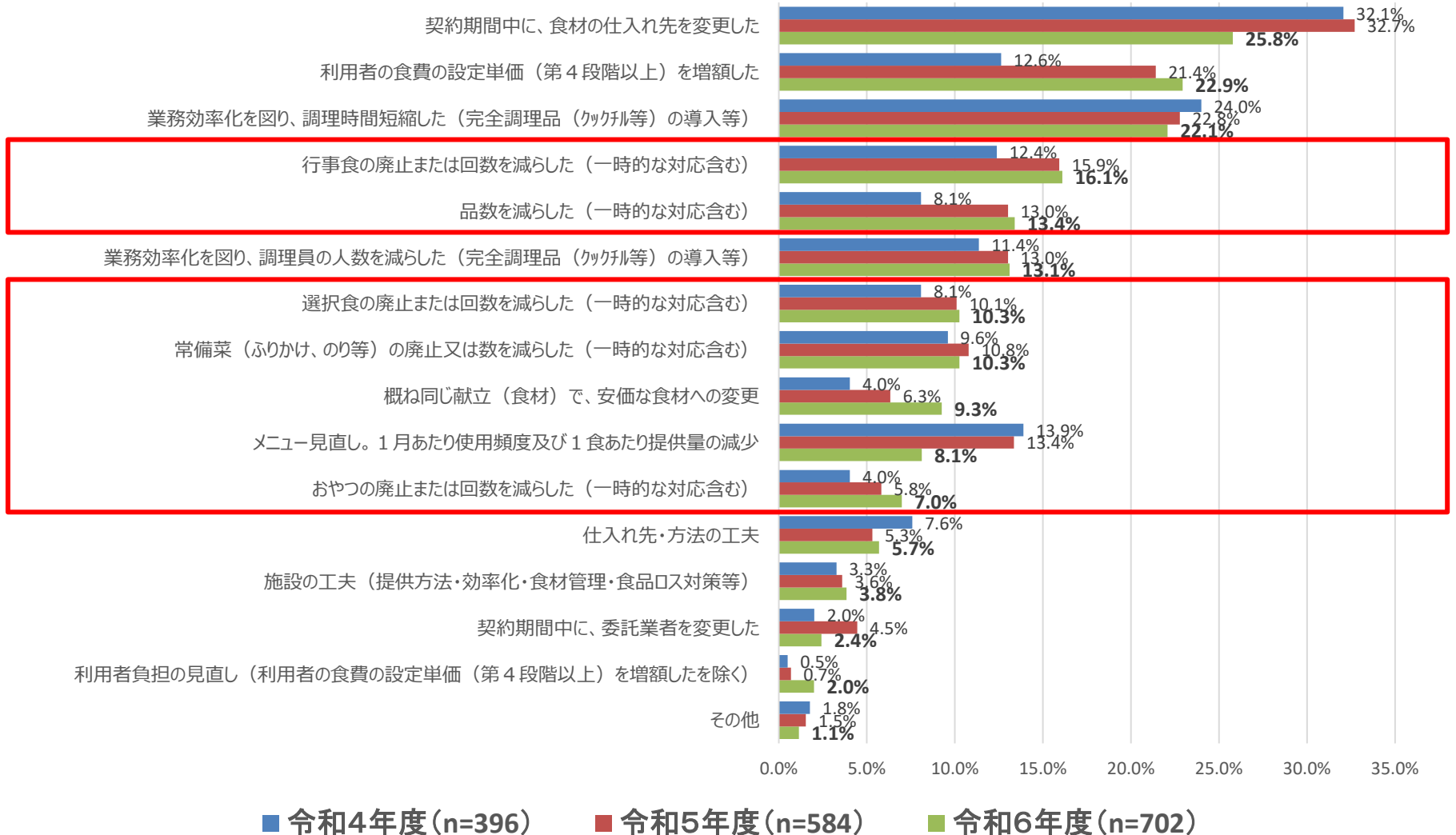


(1) 食材料費高騰に対する、施設での取組状況の有無

(n = 937)

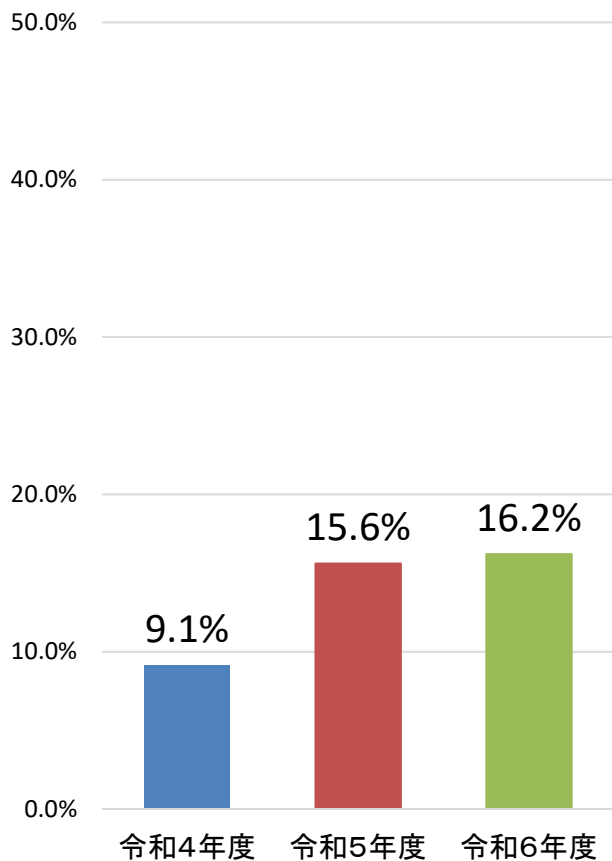


(2) 食材料費高騰に対する、施設での取組内容（対応している施設）

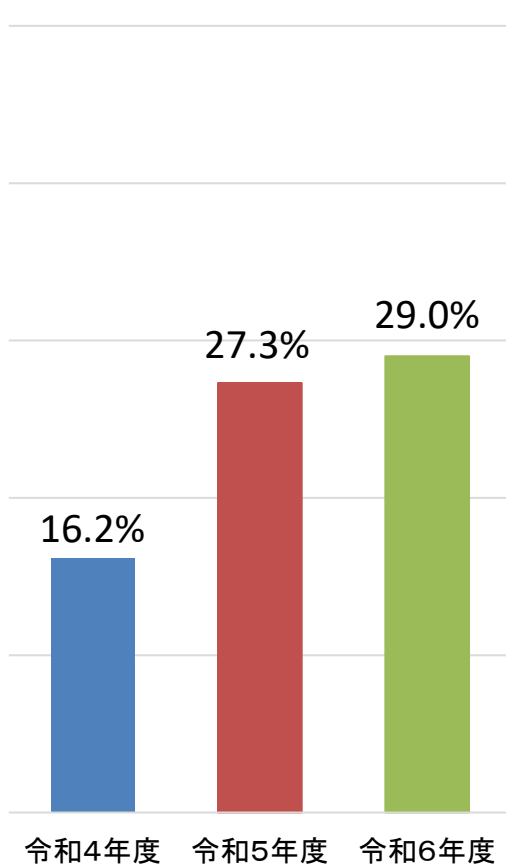


(3) 同じ栄養価での安価な食材への変更状況（変更した施設）（n = 937）

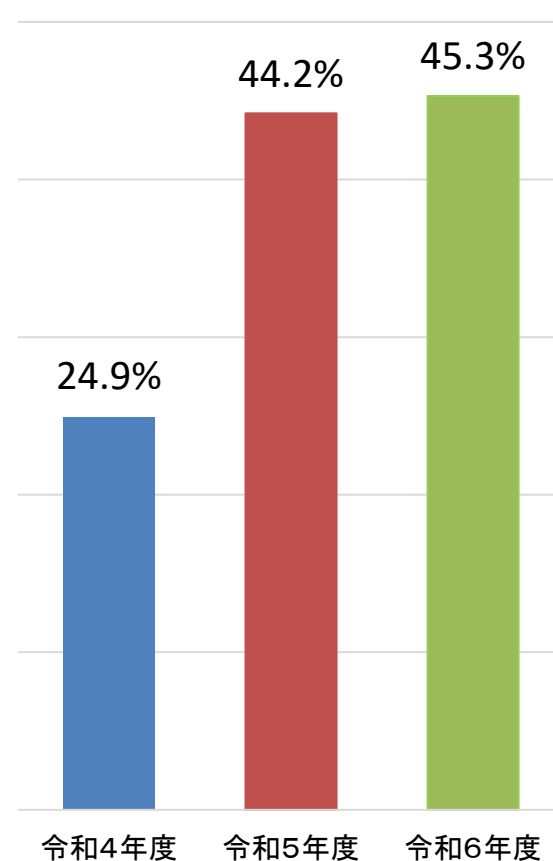
主食



副食



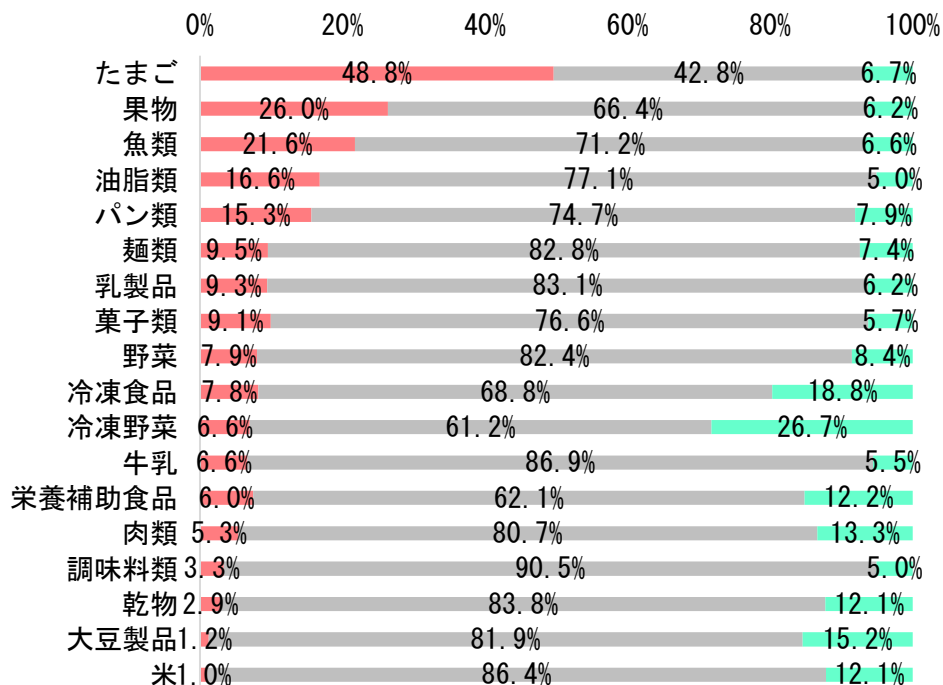
おやつ



(4) 食材の使用頻度の変化

株式会社エス・エム・エス調査 (n = 580)

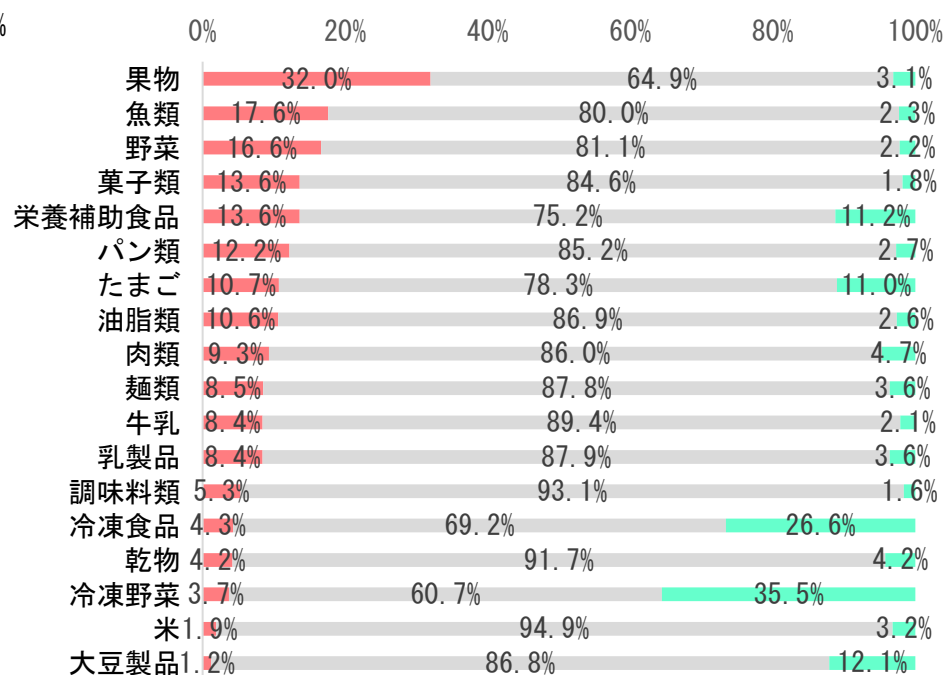
※直近1年程度 (2022年7月頃～2023年7月頃)



■ 下がった ■ 変わらない ■ 上がった

全国老施協調査 (n = 937)

※令和5年6月と令和6年6月の比較



■ 下げた ■ 変わらない ■ 上げた

「物価高騰による施設等の給食への影響調査」株式会社エス・エム・エス調査

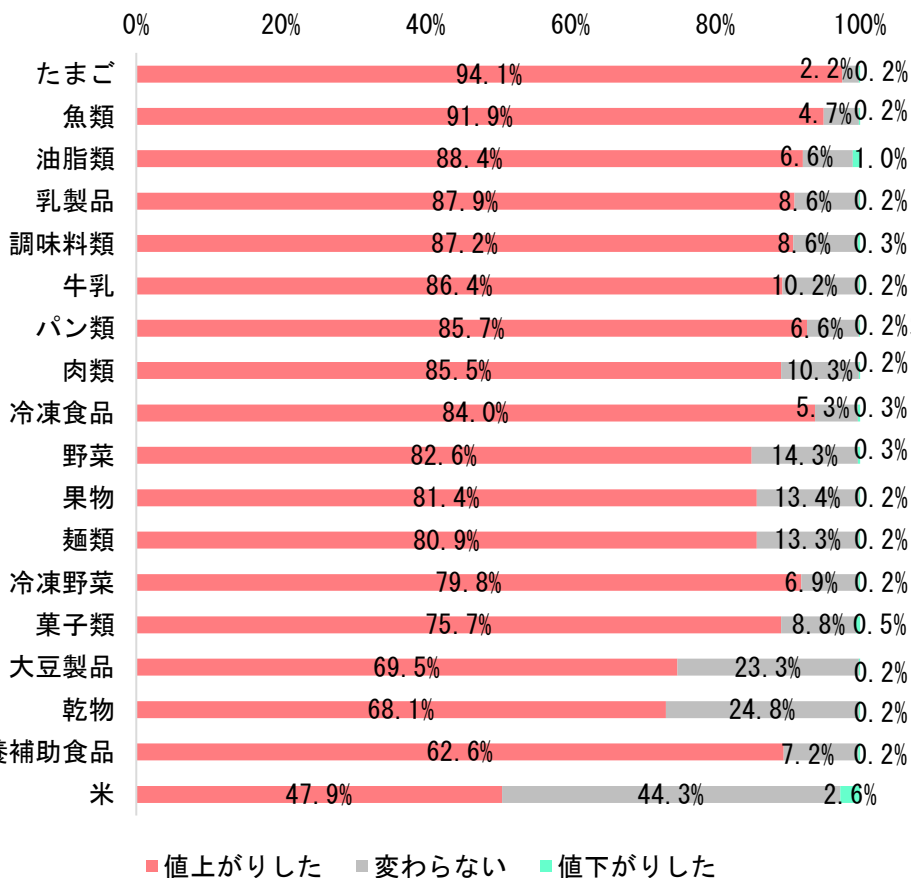
・調査期間：2023年7月24日～8月2日

・調査対象：給食のコスト管理業務を行っている全国の管理栄養士・栄養士580名

(5) 食材価格の変化

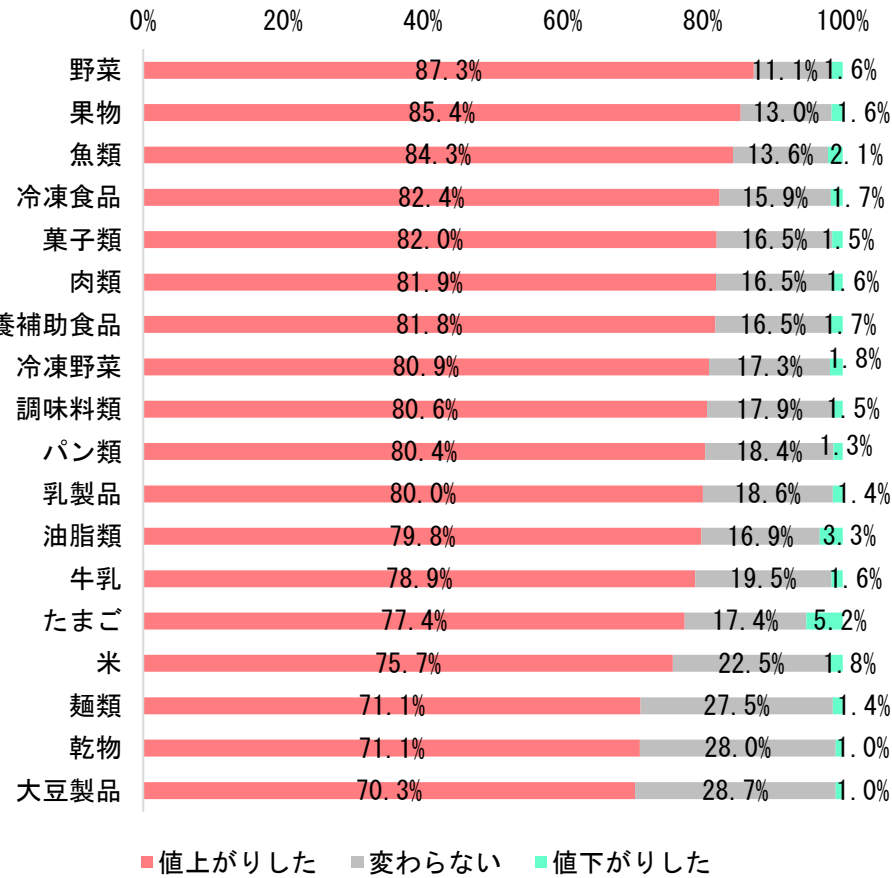
株式会社エス・エム・エス調査 (n = 580)

※直近1年程度 (2022年7月頃～2023年7月頃)



全国老施協調査 (n = 937)

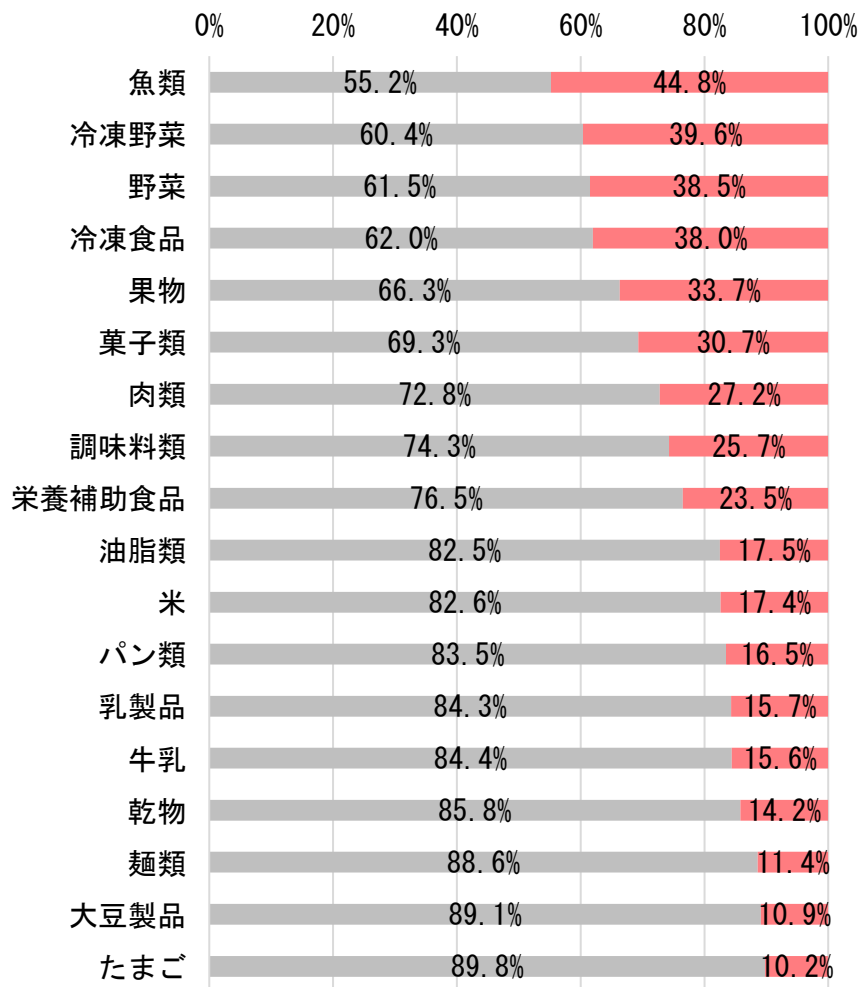
※直近1年程度



「物価高騰による施設等の給食への影響調査」株式会社エス・エム・エス調査

(6) 食材の銘柄または代替品への変更

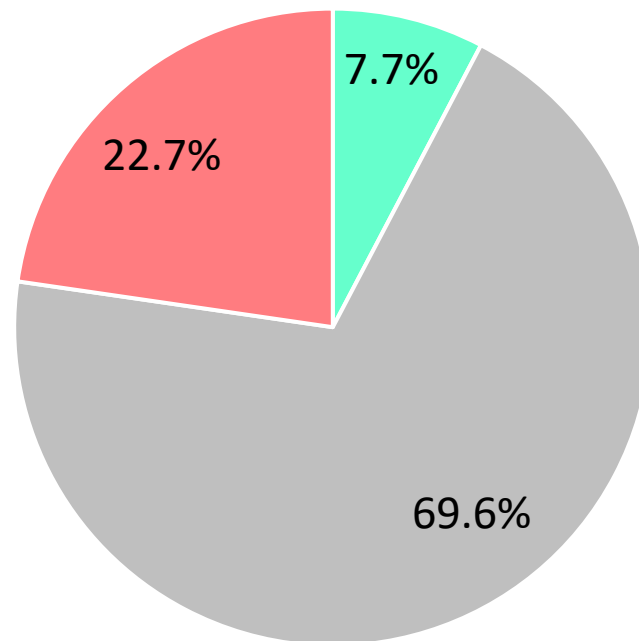
(n = 937)



■ なし ■ あり

(7) 食材品目数の変化 (R5.6とR6.6の比較)

(n = 937)



■ 増えた ■ 変わらない ■ 減った

(8) 栄養士を中心とした利用者の食事を維持するための工夫の例

(n = 350)

1) 献立や使用食材等に関する工夫

- 給食会議にて利用者に提供できる食材、好まれる料理や形状について各職種からの情報収集に努める。
- 同じ日、前後の日で可能な限り使用材料が同じにならないよう配慮する。
- 厨房の出勤人数や出勤メンバーに合わせて献立を調整し、完全調理品・カット済食材・(カット無のそのままの) 通常の食材を使い分ける。
- 牛肉・豚肉の提供は減らし、鶏肉使用の回数を増やす。生魚を減らし、安価な白身魚(特に深海魚)や外国産の冷凍魚へ変更する。野菜は冷凍野菜を使用する。
- できるだけ既製品をやめて、手作りに変更する。(おやつ類など)

2) 食事を楽しむための工夫

- 面前調理などを増やして利用者が喜んで食事を食べていただけるよう対応。
- 同じ献立でも盛り付けをする際、食器などで変化を付けるよう工夫。

3) 発注や管理に関する工夫

- 発注数管理や在庫管理の徹底。
- 大量発注や賞味期限が近い食品を仕入れ、単価を安くする。
- 地域の農家さんに協力頂いて果物などを安く仕入れさせていただく。
- 栄養士・調理員だけでなく介護職員などにも価格情報を共有し節約意識を高める。

(9) 利用者及びご家族からのご意見・ご相談・苦情

1) 食材の質 (n=139)

●食材の質の低下や提供料理の見た目の質の低下

- ・パンや麺類、生フルーツが減った、肉や野菜が固い、魚のパサつきや臭みなどがある
- ・冷凍野菜が美味しくない、繊維が多く食べづらい など

2) 食事の量 (n=149)

●食事の提供量の変化や食材使用頻度・献立の改善など(品数・行事食含む)

- ・食材パンや肉、魚、生フルーツ、おやつなどが小さくなり、もの足りない
- ・食材費の高騰で使用できる食材の重なりが多くなる傾向にあり、同じものが増えることに加え、色味を出せる食材を複数使用できず見た目が貧相になっている など

3) 食事の味 (n=29)

●味付けの変化

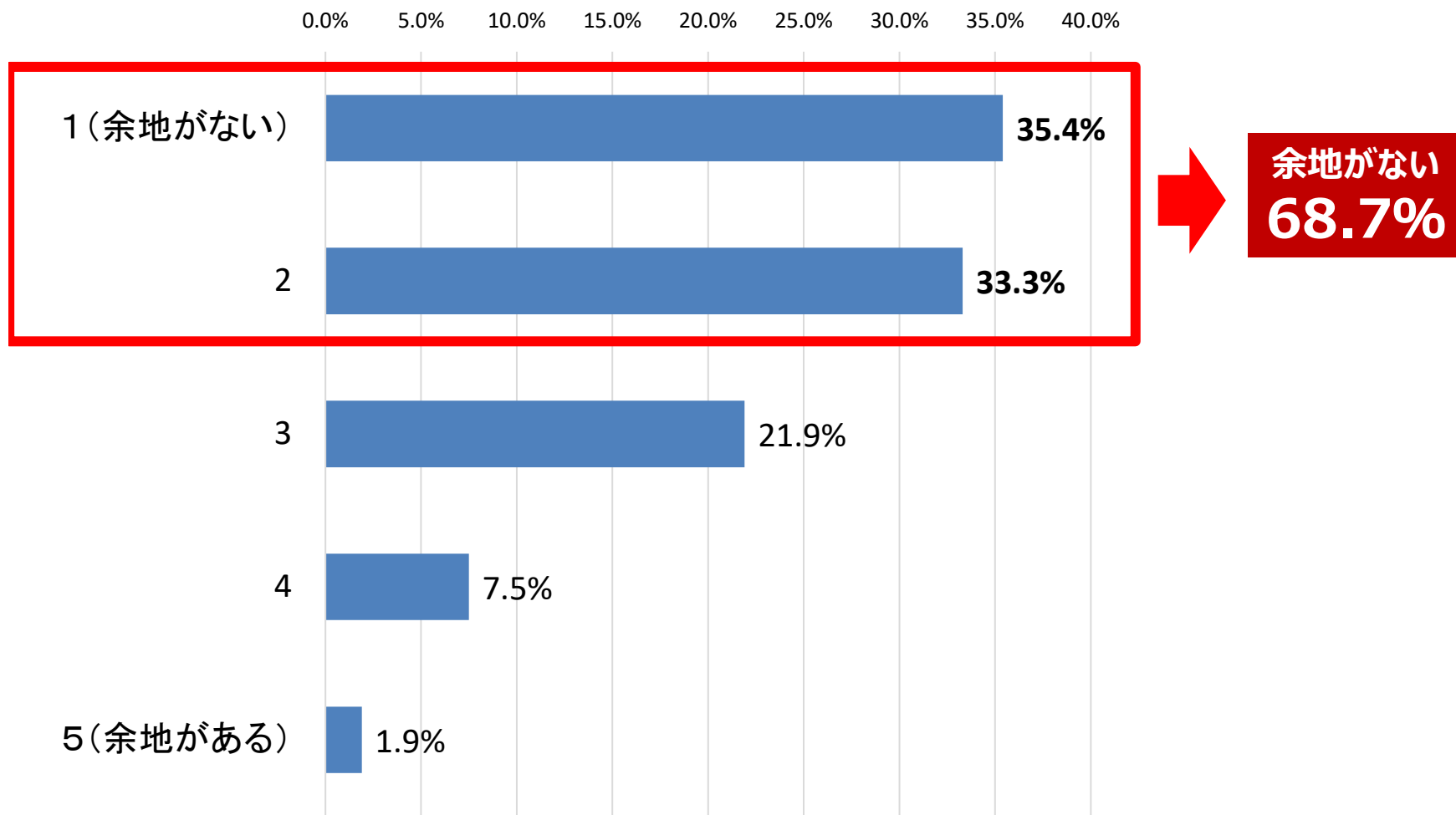
- ・材料費を抑えるため、生の食材を使用せず冷凍野菜等を使用していることから旨味がないと感じる など

4) その他 (n=17)

- ・安い食材ばかりを使用している
- ・副食3品を2品に減らして、もう少し豪華なものにして欲しい など

(9) 食材料費が更に高騰した際の質を維持する余地の有無

(n = 937)



まとめ

- 消費者物価指数（総務省）の動向を見ると、食料は、2021年（令和3年）比で21.4%増加している。食費の基準費用額は令和3年8月に1,392円から1,445円に引き上げる見直しが行われているが、令和6年度介護報酬改定では「経営実態調査の結果、食材料費の支出については全体として大きく伸びてない」として見送られた。
- 全国老協の調査では、令和6年6月の利用者一人一日あたり食費は1,753.8円（うち給食材料費が918.7円、調理員人件費が835.1円）であり、令和4年6月と比較して91.0円増加。一方で、食費の利用者負担額については、契約により定める利用者負担第4段階の利用者一人一日あたりの平均は1,533.6円であったが（第4段階の方の割合は32.3%）、調査回答施設の54.2%が基準費用額と同額の1,445円に設定していた。調査結果から、月次の給食関連費用を試算すると、一月あたり▲571,434.6円の赤字という極めて厳しい状況が明らかになった。（平均定員81.8人（特養+短期））
- 特養では食事介助が必要な方であっても食事を利用者の暮らしの中の大きな楽しみとして捉え、物価高の中でも満足度を維持したいと工夫を凝らした取組を行っているが、食事の質や栄養マネジメントへの懸念が生じている。全国老協の特養栄養士への調査では、価格が高騰し食材を見直さざるを得ない中で、使えなくなった食材が増えて献立の幅が狭まっている声、栄養リスクを危惧する声などが寄せられている。利用者からは、パンや麺類、生フルーツが減った。肉が固い。魚のパサつきや臭みがあるといった質や量が低下している声もある。
- いまも米の価格の高騰に伴う影響が続いており、最低賃金は過去最大の全国平均51円引上げられた。今後更なる高騰が見込まれる中で、本会調査では68.7%の特養が、これ以上質を維持する工夫の余地がないと回答している。



老施協VISION2035

最期の一瞬まで、
自分らしく生きられる社会へ。



公益社団法人全国老人福祉施設協議会
Japanese Council of Senior Citizens Welfare Service